



## 集 集落支援通信 40 地域におじゃまします。

### 海士の産業体験 田植え

6月2日(土)、第2回子どもダツシユ村「田植え体験をしよう!」を開催しました。小・中学生20名とその保護者、また高校生にもボランティアスタッフとして加わっていただき、計50名で田植えをしました。

講師は宇受賀地区在住の向山剛之さん。今回も昨年度同様、海士小学校前にある向山さんの田んぼをお借りして行いました。

当日は日差しが強く、子どもたちの体調が心配になるくらい暑い暑さでしたが、受付にやって来る子どもたちは元気いっぱい、名前を呼ぶと大きな声で返事が返ってきました。参加者は低学年や田植え未経験の子どもが多かったです。はじめての泥の感触に喚声があがり、「気持ち悪い」と言いながらも笑顔でした。慣れると、子どもたちは勇ましい足取りで泥のなかを進み、スタッフや高校生に教えてもらいながら苗の手植えをはじめました。

ダツシユ村では綱を使って一列ずつ苗を植えていきます。みんなで息を合わせながら植えていくのでチームワークが試されます。「こっち終わつたよ!」「あそここっつ抜けてるよ!」綱



はじめての田植え体験

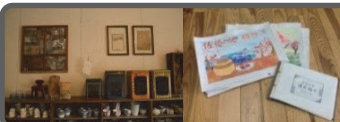
さげてください」と声をかけ合い、順調に進んでいきました。途中で泥遊びをする子どもがいたり、最後まで田植えを楽しんでる子どもがいたり、一人一人が自分なりの楽しみ方を見つけているようでした。

田植えのあとはおやつ休憩(「まき」をいただきました)を取り、最後は向山さんに稲作のサイクルを紙しばい形式でお話ししていただきました。

ダツシユ村では田植えをはじめ、海士の産業のひとつである稲作の体験を行っています。稲刈りや出来たお米でもちつきなど、まだまだ稲作体験の機会を設けていますので、田植えに参加できなかった方も次回ぜひお申し込み下さい。

### 古道具やさん、着物ブーム

あまマーレ内にある古道具やさん。以前にも増して、見に来られる方が増えています。その中でも人気があるのが着物です。一時期はお引取をどうしようか迷っていた時もあったほどでしたが、最近では興味を持たれる方が多いのに驚いています。理由の一つとして挙げられるのが、一昨年から菱浦のご自宅で井藤照子さんが行っている着付け教室だと思っています。若い人たちの間でも、自分で着物の着付けができるようになりたい、と興味を持っている方が多いです。一方で、着物の生地を使ってリメイクをされる方もいます。あまマーレでも着物を着るイベントができないかな?と考えているところです。着物好きな方、是非古道具やさんに見に来てください。



日々のあまマーレの様子やイベント情報を、Facebookで発信しています!  
[www.facebook.com/ama14chiku](http://www.facebook.com/ama14chiku)

あまマーレのホームページで貸切予約やイベント情報を見ることができます。  
<http://ama-mare.com/>

# 教育だより 【教育委員会】

## ■人づくりの拠点となる 公民館事業のふり返りから■

集落支援員が昨年行った町内アンケートで、高齢化・人口減少による集落維持への不安、歴史・伝統文化の継承の不安、地元住民とイターンの融合の難しさ、若者の地域行事への不参加などの課題があげられていました。

そこで海士町中央公民館では、地域資源を介して課題を解決し、地域づくりの担い手育成を図ろうと事業を進めました。その成果として、

①海士にしかない地域資源の大切さを知ってもらい、わがとこ意識が高まった。②短歌同好会を立ち上げる



「和歌講座」では講師の魅力あふれる講座で短歌会が結成されました

などの担い手の出現③講師となった方が地元の文化・伝統の価値をあらためて認識し、自信と誇りを持って運営に協力いただけただけなことなどがあげられます。

一方、課題として、地元の若者の参加が少なく、担い手づくりが道半ばとなりました。今年度、引き続き地域資源を活用しながら、若者も惹きつけるような仕掛け作りをし、地域づくりの担い手育成を図っていきたいと思います。

## ■地域資源を活用した人づくり■

①「ふるさと再発見ツアー」

各地区の歴史や文化を再認識してもらうことを目的に地域の方を講師



「再発見ツアー～伝えたい保々見へ～」では地区の方々との交流も

に開催していますが、誰もが地域を語ることが出来る人づくりに力を入れ、マイガイドブック作りなどで若者の参加を促していきたいと思えます。

②「民話の語り部講座」

海士弁で海士に伝わる民話を語られる御波の濱谷包房さんに講師になっていただいています。海士弁による民話に親しんでいただき、講師の方から貴重な海士の文化などを教えていただき、継承する人づくりにつなげます。

③「始めよう和歌講座」

和歌に秀でた後鳥羽上皇ゆかりの海士町に、和歌(短歌)を詠む人を増やそうと、昨年に引き続き開催。後鳥羽上皇については隠岐神社宮司の村尾周さん、短歌の作り方については笹鹿岳志さんに講師になっていただいています。後鳥羽上皇が残された遠島百首、文化を大切にしようという機運をさらに高めていきたいと思えます。

④「古文書講座」

「海士町の古文書を読む会」の方に講師になっていただき、海士に伝わる「古文書」を町民自ら解読し、歴史書に載っていない身近な歴史をひも解き、伝える人づくりにつなげていきます。

⑤「本気のやきもの制作」

海士には良い土があるということ、海士に窯を開いた陶芸家、勇木史記さんを講師に、本気でものづくりに向き合う心を育て、それを日常にも生かしていくよう進めていきます。今年で5年目となりますが、若者にも人気の講座となっています。



「本気のやきもの制作」で真剣に講師の手元をみる参加者

これらの地域資源を活用した各種講座では、町の魅力あふれる方々に講師となつていただいています。そんな講師の方々と一緒に地域づくりを担う新たな人づくりも進めていきます。皆様の積極的なご参加をお待ちしています。

(中央公民館 村尾由美子)